

新収蔵作品 2 点を常設展示室で公開

国立西洋美術館（上野公園） 2024. 09. 14～

「国立西洋美術館」は、中世から 20 世紀半ばに至る西洋美術の流れを概観するコレクションの形成を目指して、優れた西洋美術作品の収集に努めているが、今回、「新収蔵作品 2 点」が常設展示室での公開が開始された。

ラヴィニア・フォンターナ 《アントニエッタ・ゴンザレスの肖像》

1595 年？ 油彩/カンヴァス 54.5 x 47cm

画伯は 16 世紀後半～17 世紀はじめにかけて、イタリア・ボローニャとローマで活躍をした画家で、美術史上初めて女性の職業画家として成功を収め、18 世紀以前に活動した画家のなかでは最多の現存作品が知られている。

この作品は、ボローニャ訪問時になされた素描をもとにして描かれたもので、表情や衣服の装飾を精緻かつ色鮮やかに描がられている。少女が手にする手紙には、彼女の父親が体中に毛が生えるという特異体質であったとされ、その身の上が記されており、そこから彼女の名前が判明する。

ルイ＝レオポルド・ボワイー 《トロンプ・ルイユ：クリストフ＝フィリップ・オベルカンフの肖像》

1815 年 油彩/カンヴァス

画伯は、革命期から七月王政期のフランスにおいて、主に中産階級に属するパリ市民の多彩な風俗や肖像画を描き、サロンで人気を博した画家・版画家で確かな写実性描写力を備え、イメージの遊戯性に富んだ作品を制作した。

版画を摸したトロンプ・ルイユ（だまし絵）の肖像画は、ボワイーの最も重要なパトロンの一人、画面下部にはモデルの業績を称える賛辞の記載がある。

